

① 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 兄はショウケン会社に就職した。
- 2 キンセイのとれた体。
- 3 失敗を芸のコやしとする。
- 4 もらったシキヨウ品を使ってみる。
- 5 大いにフンキして勉強する。
- 6 選手は縦横に活躍した。
- 7 身辺の出来事を日記に書く。
- 8 重要な使命を帯びる。

② 次の1〜4の——線と同じ意味・働きをするものを後のア〜オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

- 1 イスの下にある本。
ア すばらしい賞である。
イ ある晴れた日の午後。
ウ 石の裏側に書いてある。
エ 君には長所がある。
オ あるいは出席できるかもしれない。

- 2 どんなにかんでもかみきれない。
ア ジュースでも飲んで待ってしよう。
イ 三年生でも書ける漢字だ。
ウ 君の学校でもしているはずだ。
エ 画家である彼は詩人でもある。
オ 転んでもすぐに立ち上がる。

- 3 妹ばかりかわいがられる。
ア 飛びあがらんばかりに喜んだ。
イ 一時間ばかり待たされた。
ウ 太郎はサッカーばかりしている。
エ たった今帰ったばかりだ。
オ 自分で言ったばかりにやることになった。

- 4 読んでみたが、おもしろい本だった。
ア ために食べたが、おいしかった。
イ 山も好きだが、海も好きだ。
ウ それはわたしが読んだ本だ。
エ 海に行くのが好きだ。
オ 食べたかったが、食べられなかった。

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

ひとりの少年

神田 亮

わたしの中には いつも
ひとりの少年が棲んでいる
森の中のみずうみのように
あおく澄んだ瞳の少年がいる

わたしが少しのことにくじけたり
かげ口をいわれてくよくよしたり
何をやってもすぐ友だちと比べて
①A をもち落ち込んでいると
君のやり方でよいのだ

①B をもて とささやく

一人ぼっちの同級生をみても
やさしい言葉がかけられない
悪いことに誘われても
中々うまくことわれない

1 ①A、①B にあてはまることばの組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア A 敗北感 | B 思いやり
イ A 敗北感 | B ほこり
ウ A 劣等感 | B ほこり
エ A 劣等感 | B 自信
オ A 無力感 | B 思いやり

2 線②「立ち止まっている」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 何もできない自分を恥ずかしく思っている。
イ いろいろな考えに迷って行動できないでいる。
ウ 悪い友人たちがおそろしくておびえている。
エ 何が自分に得なのかわからなくなっている。
オ だれにも相談できないで困っている。

3 線③「そつと背を押してくれる」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 時には厳しくしかってくれる。
イ 今すぐ行動しなさいと教えてくれる。
ウ 包みこむようにいやしてくれる。
エ いつも温かくなくさめてくれる。
オ 動き出せるようにはげましてくれる。

4 線④「澄んだ瞳の少年」とありますが、その「少年」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 「わたし」の心や物事の本質を深く見つめている少年
イ さまざまな角度から物事の裏を冷静に考える少年
ウ もろく傷つきやすい純粋な心を持っている少年
エ いつも「わたし」を守ってくれて頼りになる少年
オ 「わたし」が恥ずかしくなるほど美しい少年

5 線⑤「あなたの中にも ひとりの／うつくしい瞳の少女が棲んでいる」とありますが、ここからどのようなことが読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 少女の意見に素直に従いなさいということ
イ 他人に対する思いやりを持ちなさいということ
ウ 自分自身に誠実に行動しなさいということ
エ いつまでも純粋な心を持ち続けなさいということ
オ 他人にはこれる生き方をしなさいということ

わたしの中には いつも
④ 澄んだ瞳の少年が棲んでいる
⑤ あなたの中にも ひとりの
うつくしい瞳の少女が棲んでいる

『子どものための少年詩集2014』
銀の鈴社 による

④ 次の文章は、フィリピン出身の母親マリルウが、小学三年生の息子ロニーの運動会をロニーの妹レイナとともに見学している場面です。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

開会式がようやくおわると、児童たちはそれぞれの席にすわった。しかし、休むまもなく四年生による八十メートル走がはじまった。赤組と白組、それぞれの応援団がまえに出て、旗やポンポンをふり、みんなも手をたたいている。

正面の朝礼台から見て右側が赤組の応援席で、左側が白組の応援席だ。校庭の中央にはトラックがあり、ピストルの音が鳴ると同時に五、六人の子どもが走りだす。からだをかたむけてコーナーをまわり、力をふりしぼってゴールをめざす。誰がどちらの組かは、帽子の色でわかる。先生たちも、赤いＴシャツと白いＴシャツにわかれていて、校長先生だけは、中立であることを示すためか、青いポロシャツを着ていた。ロニーと同じ赤組の太二くんはダントツの一位でテープを切った。

赤と白の二色に色わけされた光景を眺めているうちに、マリルウは日本の運動会のシステムがようやくわかってきた。ロニーから、三年生の四クラスのうち一組と二組は赤組で、三組と四組は白組なのだと説明されたときにはとりあえずうなずいて見せたが、実はなにもわかっていなかった。つまり、三年生だけではなく、ほかの学年もクラス単位で赤組と白組にわけられていて、どの競技も赤組と白組で争うようになっていっているのだ。

フィリピンの小学校の運動会でも徒競走はあるが、そこで何位になるかは個人の問題でしかない。同じ学校の児童を赤組と白組にわけて、①A 敵同士であるかのように戦わせることに、いったいどんな意味があるのだろうか？

マリルウはふしぎでならなかったが、げんに児童たちは赤組と白組にわかれて懸命に戦っていた。スピーカーから聞こえる声も、「赤組、がんばってください。白組も、がんばってください」とくりかえしている。

やがて三年生たちがスタートラインのほうに移動をはじめた。女子が先に走り、そのあとに男子が走る。ロニーは男子の五組めだと言っていたので、マリルウはレイナをつれてゴールの近くへと急いだ。

ロニーは練習で走ったときは二位だったと言っていたから、①B 二位にはなってほしかった。

——それよりも、ころばないでゴールすること。全力をだせば、それでいいの。神様、どうかロニーをお守りください。マリルウは両手を組んで祈った。レイナも「ロニー、がんばれ」と叫んでいる。

「ほら、見える？ つぎに走るのがロニーよ。赤い帽子をかぶって、一番外側にいるでしょ」

「うん、いた」とレイナは答えたが、本当に見つけたかどうか、ちよつとあやしかった。でも、肌の色がひとりだけちがうのだから、目立つのはまちがいがなかった。

ロニーがスタートの位置につき、曲げた左腕をまえにだしたときにピストルが鳴った。ロニーは勢いよく走っていく。一番外側

のコースなので、先頭を走っているように見えるが、コーナーを曲がりおわらなければ実際の順位はわからない。それでもロニーが勝っているように見えて、「行けー！ ゴー、ゴー！」と、マリルウは大声で応援した。「ロニー！」とレイナも叫んでいる。そして、本当にロニーは一位でテープを切った。

「ワオッ！ やったね！」

あまりにうれしくて、マリルウはレイナを抱きあげると頬にキスをした。ゴールをかけぬけたロニーも跳びあがってよろこんでいる。「おめでとう。ロニーくん、すごいじゃない」

うしろから声をかけられてふりかえると、太二くんのおかあさんだった。

「息子さん、いいフォームで走りますね。まだまだ速くなりそうだ」

となりの男性も笑顔で言ってくれて、マリルウはおもわず胸が高鳴った。日本にきてから、こんなに晴れ晴れとした顔をした男性を見たのはじめてだった。

「ほくは太二の父親です。みなさんのことは息子や妻から聞いていて、いつかお目にかかりたいとおもっていました」

「ありがとうございます」とマリルウはお礼を言った。

そこでレイナがトイレに行きたがったので、マリルウは太二くんの両親にあいさつをして校舎にむかった。トイレをすませて校庭にもどり、ロニーをほめてあげようとおもって赤組の応援席のほうに歩いていくと、ふいにざわめきがおきた。あたりにいた小学生たちや親たちが声がするほうに顔をむけている。

胸さわぎがして、マリルウはレイナの手を握った。首を伸ばして見ると、十メートルほど先の鉄棒のあたりにひとだかりができていて、その中心にいるのはロニーだった。水筒を両腕で抱きかかえて、頭を上げしくふるロニーを子どもたちがとりかこんでいる。

胸や背中ゼッケンから同じ三年一組の子たちだとわかり、ロニーを助けるために進みでようとしたマリルウの肩を誰かがつかんだ。「おかあさんは、いまは行かないほうがいい」

耳もとで言われてふりかえると太二くんのおとうさんだった。おかあさんも一緒にいる。

「ほら、担任の水野先生が来たから、もうだいじょうぶですよ。まずは先生にまかせましょう。少ししたら、ロニーくんのおかあさんはここにいて水野先生に伝えてきますから」

太二くんのおとうさんに言われても、マリルウは心配で泣き叫びたいほどだった。いったいどうして、ロニーがクラスメイトから② あんな目にあわされているのだろう。まさか、フィリピン人だということではないだろうか？

不安のあまり、マリルウは太二くんのおかあさんに抱きついた。③ そのマリルウの腰にレイナがしがみついていた。

「だいじようぶ。心配しないで」

太二くんのおかあさんに背中をさすられて、マリルウは泣きだしそうになるのを懸命にこらえた。おそろおそろ顔をあげると、水野先生がすごい（注1）剣幕でロニーをとりかこんでいた子どもたちを遠ざけて、そのうちのひとりから話をきいている。水野先生の顔はしだいにやさしくなったが、マリルウは気が気ではなかった。ロニーのそばには学年主任の先生がいて、肩をたたいておちつかせようとしている。

「ちよつと行つてきます」

そう言つて、太二くんのおとうさんが水野先生にかけよつた。そして先生の話に笑顔でうなずいている。

「どうぞ、こつちにいらしてください」

右手をあげた太二くんのおとうさんに呼ばれて、マリルウはレイナと太二くんのおかあさんと一緒に水野先生のところまで歩いていった。

「こんなことになつてすみません」

真っ赤なTシャツを着た水野先生にあやまれて、マリルウは事情がわからないまま頭をさげた。

「ロニーくんの水筒のなかがコーラだということで、子どもたちがさわざだしたようなんです。子どもというのは、そういうところには実に④がきくんですね」

そう言われたとたん、マリルウは自分がとんでもない失敗をしたことがわかつた。

「プリントに書くなり、電話でお伝えするなりすればよかつたんですが、うちの小学校では水筒のなかには水かお茶かスポーツドリンクということになっていましたね。⑤Aわたしの不手際で、まことにうしろめたいありませんでした」

「いいえ、悪いのは⑤Bわたしです。すみませんでした。ロニーも、ごめんね」

そこでようやくマリルウはロニーと目をあわせた。ロニーは、うらみがまじげな目つきでにらんできたので、マリルウはもうしわけなくおもつてうつむいた。

「ロニーくん、そう怒るなよ。つまり、フィリピンの運動会では、子どもたちはみんな水筒にコーラを入れてくるんだろ？」

太二くんのおとうさんにきかれて、ロニーが⑥こわばつた顔でうなずいた。

「きみはさつき一等だつたから、⑦勝利の美酒ならぬ、勝利のコーラを飲んだわけだな。さぞかしおいしかっただろう」

このひとは自分の味方だとわかつたようで、ロニーの表情が少しおだやかになった。

「いいなあ、コーラを飲みながらの運動会か。きつと、三年一組のみんなも一度やつてみたいとおもつたから、コーラを持つてき

たロニーくんがうらやましくて、こんなことになつたんでしょう」

「あなた、そのへんにしてください」

奥さんに言われて、太二くんのおとうさんが頭をかいだ。

「さあ、みんな席にもどきなさい。ロニーくんは、こつちにいらつしゃい」

水野先生の指示で、三年一組の子どもたちがテントのしたの応援席にすわつた。ロニーは水筒を両腕でかかえたまま水野先生のそばにきた。

「まだたくさんはいつてるの？」

水野先生にきかれると、ロニーが水筒をさしだした。

「あら、こんなにたつぷり。これじゃあ、飲まないともったいないわね」

そこで水野先生がマリルウに水筒をわたした。

「もうしわけないんですが、おうちに持つてかえていただいてもよろしいでしょうか。ロニーくんには、⑧来賓の方用のお茶のペットボトルをわたします」

「わかりました。よろしくお願いします」

マリルウは水野先生に⑦深々と頭をさげた。

「いいえ、こちらこそすみませんでした。今度、おりを見て、ロニーくんがフィリピンの運動会について話してもらいますね。子どもたちも、いい勉強になるとおもふんです。ロニーくん、きもちをきりかえて、赤組の優勝めざしてがんばろう」

「はい！」

ロニーが元気に返事をしたので、マリルウはようやく安心した。

「よし、行け！ ほら、赤組がんばれ！」

⑧太二くんのおとうさんはなにこともなかつたかのようにグラウンドにむかつて声援をおくつていた。

（佐川光晴『大きくなる日』集英社 による）

注1 剣幕 Ⅱ おこっている顔つきやようす

注2 勝利の美酒 Ⅱ 勝負に勝ったときに飲むお祝いの酒

注3 来賓 Ⅱ 特別に招いた大切な客

1 ①A、①Bにあてはまることばの組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア A あたかも — B きつと
イ A あたかも — B せめて
ウ A たとえば — B せめて
エ A たとえば — B かならず
オ A まったく — B かならず

2 線②「あんな目にあわされている」とありますが、「何」が原因で「どうなっている」のですか。解答は、「……が原因で、……。」のかたちにして四十文字以内で書きなさい。

3 線③「そのマリルウの腰にレイナがしがみついていた。」とありますが、このときのレイナの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア ふだんと違う母親のようすを見て、不安に思っている。
イ ロニーだけでなく自分も困っているのだと訴えている。
ウ 母親の不安な気持ちをやさしく支えてあげようとしている。
エ ロニーをいじめるクラスメイトに対して怒っている。
オ 自分たちが心細いので太二くんの母親にたやろうとしている。

4 ④にあてはまる漢字一字を考えて書きなさい。

5 線⑤A、⑤B「わたし」とは、それぞれ誰のことですか。次の中からその組み合わせとしてふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア A マリルウ — B 水野先生
イ A マリルウ — B 太二くんの母親
ウ A 水野先生 — B マリルウ
エ A 水野先生 — B 太二くんの母親
オ A 太二くんの母親 — B マリルウ

6 線⑥「こわばった顔でうなずいた」とありますが、このときのロニーの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 急に見知らぬ男性から質問されてこわがっている。
イ いきなりフィリピン話をされて怒っている。
ウ 走り終わった直後なので疲れてぼんやりしている。
エ はじめて会う男性に声をかけられて警戒している。
オ 見知らぬ日本人に質問されて敵意を表している。

7 線⑦「深々と頭をさげた」とありますが、このときのマリルウの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 来賓用の大切なお茶をいただいて申し訳ない気持ち
イ 水筒を持ちかえらなければならない不満な気持ち
ウ 温かな配慮してくれた水野先生を信頼する気持ち
エ 手際よい対応してくれた水野先生に対する尊敬の気持ち
オ 日本の学校に不親切な対応をされて不信がつのる気持ち

8 線⑧「太二くんのおとうさん」とありますが、どのような人と読みとれますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 日ごろから明るく陽気に日々を過ごしている調子のよい人
イ 外国人が困っていないかと周囲を気にかけている人
ウ 外国人からよく思われようと、いつも考えている人
エ たえず外国人と日本人の仲をとりもとうと思っている人
オ 外国人にも偏見を持たないで常に公平な判断ができる人

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

世の中には「自分らしさ」探しに躍起(やっつき)になっている人も多いが、一方で妙に冷めた態度で生きている人も多い。そういう人はいつも「生きていることがつまらない」と言っている。

しかし、本当は生きていくうえで「つまらないこと」などほとんどないのである。どんな活動をしていても、何をしていても、

人間について学べるはずなのだ。多くの人は学ぶ力、学ぶ気がないから「これはつまらない」「これはいい」と選別しているだけである。いったい何を基準に振り分けているのか。不思議である。「私はこれが好き」「嫌い」と言いたがるひとは多い。何を基準に好き嫌いを決めているのか。好き嫌いを簡単につけてしまうことは、僕に言わせれば、^①半分目を閉じているのと同じである。「嫌いい」に振り分けた半分の情報を捨てているのだから。^②人間は好き嫌いなど持つてはいけけないのだ。好き嫌いできるほど偉いのか。そんな乱暴なことをして、自分の生きている意味、自分とは何かをまともに考え続けられるのか。

「あの人のことは好き」「あいつは嫌い」などといった人の人は言う。僕には人の好き嫌いはない。必ずいいところを見つけられる。いいところも、悪いところも見つける。人間関係を好き嫌いで決める人間は、他人から好き嫌いで物事を決められるという、まったく同じ目に遭うのだ。なぜ好き嫌いがあるのか。嫌いな性格である理由を言ってみてほしい。^③究極まで突き詰めてしまえば、なぜ嫌いなのか、よくわからなくなるはずなのだ。

それでも好き嫌いを簡単に口にし、周りに敵か味方かのレッテルを張り、^④二項対立にしてしまう人間は多い。

僕に言わせれば、^⑤そういう人は脳の^⑥キヤパシティ、情報処理能力が乏しいから、たくさん情報が入ってくると混乱してしまうのだ。だから好き嫌いを先に選ぶしかない。あらかじめ「こしか見ない」と^⑦フィルタリングしないと頭がパンクしてしまうのだ。好き嫌いとは、入ってくる情報の量を制限し、考えやすくするためになされる行為である。しかしそれは、ものごとの真実を見ようとする態度ではない。「好き嫌いがあつたほうが、個性が出る」「それがこだわり、個性だ」などと言う人もいるかもしれない。それは勘違いだ。僕は好き嫌いなどないが、十分に「個性的だ」と言われている。

僕は絵描きをめざしていたくらいだから、絵が好きだ。絵が好きなくとも、いまロボット研究でやろうとしていることと、根っこでつながっている。美術館に行く僕は「ここには知らない自分がたくさんいる」と思つて、楽しくなる。

芸術とは、何か極端な人間の才能を表現しているものだ。美術館さえあれば、僕は一日中そこにいられる。僕は絵のなかに自分を探すために鑑賞する。僕は、見る絵と見ない絵がはっきりしている。瞬間的に見て「わかる」ものは、見ない。^⑧なぜこれが描けているのがわからない絵を見ている。ふつうのひとは、たとえばピカソ展に行くときの絵もそれなりにまんべんなく見るらしい。僕は見る絵は二〇分でも三〇分でも見るが、見ない絵は一瞬しか見ない。ざっと見て「こいつはこういう理由で、こういう手法で描いている」とわかるものは、見ない。もつとも、結果として、立ち止まってじっくり見る絵が有名な画家の代表作であることは多い。しかし有名な絵かどうか、誰が描いたか、いつ描かれたかなど、本質的にはどうでもいい。そういうものに価値は感じない。絵を見て自分で描けそうか、再現できそうか、こいつはどういう視点でこれを描いたのか……そういったことを確認し、自分のなかに取り込むために、じっと見ている。

「すごいなあ」などと感心するためではない。「こういうふうにすればいいのだ」といったことを発見し、自分が気づいていなかった

たことを取り込むために見るのだ。もちろん、感動することは大事だ。感動しなければ取り込むという意欲も生まれない。良いのか悪いのかもわからないものを、取り込むことはできない。「すばらしい」と感動し、共感すると、自分がそのレベルまで行けるかどうかはわからないが、影響は受ける。

画家には、二通りの描き方がある。^⑨「し尽くして描くタイプと、いきなり完成形が「見えて」しまつて描けるタイプだ。たとえばシャガールは後者だろう。^⑩ゼロの落書きのように描ける。僕はシャガールのように描けない。なぜこんなに適当に描いてバランスのいい絵になるのか、よくわからない。あれは天才だ。シャガールのように「なぜこんなふうを描けるのか。なぜ自分はこういうものを描けないのか」と感じさせる絵には、異様に興味がわき、いつまでも見ていたくなる。自分のなかにも本当はあるかもしれないのに、まだ発見できていない部分のように感じるからだ。

もちろん、自分にそんな才能はないのかもしれない。ただ僕は負けず嫌いだから、「トレーニングしたらできるかもしれない」と思いながら、絵や造形物を見ている。自分ができそうにないもののなかに、自分がまだ知らない自分を見つけようとする。自分の内面は、そうやって発見していくものなのだ。トレーニングをして作っていくものなのだ。自分のなかに種さえあれば、^⑪がんばつて掘り起こせば芽は出てくるはずなのだ。

こうした感覚、こうした努力は、研究者にとって重要である。たとえばロボットにはさまざまな側面があり、開発や運用にはさまざまな^⑫知見を必要とする。僕ははじめコンピュータを学び、それから機械制御を学び、機械設計を学び、認知科学を学び、いまは脳科学を学んでいる。このようにひととおりのことはやっているが、はじめからなんでもできたわけではない。人間とは何か、自分とは何かという問いを突き詰めていった結果、多様な領域に首を突っ込むことになった。

いまの自分の内側を見て、あるいは他人を見て「自分にはこれがない」とあきらめるのではなく、「きっと自分もできるはずだ」と思つて掘つてみるのが大事なのだ。たいていのことは、あるていどまでは後天的にできるようになる。いま自分のなかにないものは、他者から学習して取り込むか、自分で作つてしまえばいいのだ。他者のなかに知らない何かがあり、少しは自分でも興味があるなら、近づいて取り込めばいい。僕はたいていのものはそうやって、できるようになってきた。ひとつふたつできるようになると、その応用で似たようなことは大概できるようになり、また次の何かを探し始める。そうやって新しいものを発見し、価値を作りだしている分野が、僕の場合はロボット研究である。

(石黒浩「アンドロイドは人間になれるか」文藝春秋 による)

注1 躍起になっている 〓 むきになつてものごとに取り組んでいる

注2 究極 〓 ものごとの行き着く果て

注3 二項対立 〓 ものごとを対立する二つに分けること

注4 キヤパシティ 〓 最大限度の容量

注5 フィルタリング 〓 選別し、不要なものを取り除くこと

注6 知見 〓 実際に見て得られた知識

- 1 線①「半分目を閉じている」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 一つの可能性に賭けることで緊張を高めている。
- イ 自分の答えを見つけるまでかたくなに考えている。
- ウ 多くの情報を捨てるため危うく不安定である。
- エ 限定的な情報だけでものごとを判断しようとしている。
- オ 自分の目で得た情報より他人の言葉に頼っている。

- 2 線②「人間は好き嫌いなど持つてはいけけないのだ。」とありますが、これはなぜですか。次の中から筆者の考えとしてふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア どんな活動をしていても「つまらないこと」はないから。

イ 好き嫌いを決めて偉ぶる姿勢が乱暴や身勝手さにつながるから。

ウ 自分の生きる意味や自分のことを正しく考えられないから。

エ 他人からも好き嫌いで価値を決められることが繰り返されるから。

オ 突き詰めて考えるとわからなくなる程度の理由しかないから。

- 3 線③「そういう人」とありますが、その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 生きていることがつまらないので、妙に冷めた態度で生きている人
- イ ものごとを深く学ぶ気がないため、自分の基準で選別をしている人
- ウ 人間関係を好き嫌いで決めたがる考え方が理解できない人
- エ 好き嫌いを気にせず一人ひとりのいいところを見つけようとする人
- オ 「自分らしさ」探しに躍起になって個性を出そうとしている人

- 4 線④「知らない自分」とありますが、その内容を言いかえた三十三字の表現を文章中から探し、初めと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。

- 5 線⑤「なぜこれが描けているのかわからない絵を見ている。」とありますが、これはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分ができそうにないものから影響を受けて、自分の内面を作っていくから。

イ 極端な人間の才能からも人間について学べるため、興味を持つ必要があると考えているから。

ウ 人間が後天的に成長するためには、感動したり知見を身につけたりする時間が必要だから。

エ 作品の視点や技法を理解できるようにすれば、いまやっているロボット研究が楽しくなるから。

オ 負けず嫌いで、天才の手法を確認しながらその才能をこえたいと考えているから。

- 6 ⑥にあてはまることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 感動 イ 討論 ウ 努力 エ 反省 オ 計算

- 7 線⑦「がんばって掘り起こせば芽は出てくるはずなのだ」とありますが、どういうことですか。次の文の（ ）にあてはまる表現を線⑦がある段落以外の文章中から十字以上十五字以内で探して、書きぬきなさい。

（ ） ことで、できるようになるのだ。

- 8 次の中から文章に書かれた筆者の考え方として合っているものには○、合っていないものには×を、それぞれ記号で書きなさい。ただし、すべて同じ記号で答えてはいけません。

ア 世の中には好き嫌いを言いたがる人が多いため、「僕」は好き嫌いを言わないことで個性を身につければいいと考えている。

イ 「僕」は絵のなかに自分で「わかる」手法を探しながら鑑賞しているので、美術館のどの絵もまんべんなく見る姿勢に疑問を感じている。

ウ 自分にとっての価値は世間からの評価や作品の情報などには関係がなく、自分が感動するかどうかで決まる。

エ 絵を見るとときもロボット研究をするときも、「きつと自分もできるはずだ」と思っている可能性を探ろうと取り組んでいる。

オ 他人と比較して自分にはできないとあきらめるのはもったいないことで、同じ領域でねばり強くがんばっていれば才能は必ず開花する。

